

J T B グループ労働組合連合会 第 2 4 回震災復興支援活動

J T B 西日本地域労働組合 関西支部

高田 菜緒

日 時：2017年5月26日（金）～5月27日（土）

場 所：福島県南相馬市

参加人数：24名

1. 活動参加にあたって

「どの場所においてもできること」「現地に行ってもできること」

震災後、これまで「どの場所においてもできること」として、私なりに募金という形で僅かでも被災者の方々に届けることができればと思い、続けて行ってきました。

そんな中、ふと思うことは「現地に行ってもできること」を自ら行動に移せないでいる、気持ちだけの状態にモヤモヤがありました。

2014年に労働組合の執行委員となり、J T B グループ労働組合連合会による震災復興支援活動としてボランティアを継続的に行っていることをより身近に知ることになりました。

しかし、その後なかなか勤務都合がつかず、今回早めの計画でやっと参加することができました。

一人では行動に移しづらいことも、一緒に役に立てることがあるなら！と、執行部メンバーからの「行かない？」の一声ですぐに決断できたのは、グループとしての後ろ盾があっただけでした。

参加前には、これまでのボランティア活動レポートや、南相馬市のボランティア活動センターのHPを拝見し、イメージして当日を迎えました。

2. 活動内容について

ボランティア活動に入る前に、南相馬市ボランティア活動センターで現状についてお話を伺いました。

そこで放映されていたニュースの一部にあった言葉が強く心に残っています。

～いま切実に、多くの人手を必要としています～

震災から6年が経ち、メディアの取り上げも減っていく中、年々ボランティア活動の参加人数が減少している。避難指示解除を迎え、新たな生活をスタートさせるための準備に、自宅の片づけやお引越、敷地の整備など求められる支援内容も変わってきています。

各日、朝にボランティアセンターの方に作業内容を割り当てていただくのですが、2日目は土曜日ということもあり、ほかのボランティアグループ様も

多数参加されており、個人でお引越をされる方の冷蔵庫や洗濯機など、大きな家電を運ぶお手伝いなども作業内容にありました。

今回、私たちの2日間の活動内容は主に草刈でした。「大掛かりな作業ではないな」と、正直最初は感じていました。

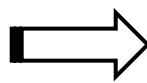
1日目は仮設住宅の敷地内、2日目は個人宅の草刈を担当しました。



2日目の仮設住宅では、周囲の雑草がそのままになっており、土手の部分は草刈り機で一気に減らしていただき、刈りきれない部分を手ガマでさらに刈りきるようにしました。途中霧雨が降る中の作業でしたが、じりじりと暑い中よりは作業も進めやすかったと思います。お昼休憩も取り、午前午後と5時間ほどで作業は終わりました。

作業中感じた仮設住宅の様子は、暮らす方が随分減っているようで空き家が目立ちました。それでも今なおここで暮らす方々にとって、気持ちよく過せる環境に少しでもお力になれば幸いです。

2日目の個人宅では、裏山の竹林の一部を畑にしていたと聞きましたが、こちらも今は雑草が生い茂って草を分け入るような状況からスタートしました。2日目もあいにくの天気で、作業中は雨もやみましたが足場が濡れた中での作業になりました。竹林だったこともあり、1日目と比べやりにくい部分もありましたが、手ガマの扱いも慣れてきていたので、作業に集中して取り組みました。



この日も早めに作業は終わり、最後に依頼主様が敷地の高台に案内してくださいました。田んぼが広がる気持ちのよい景色だなと感じましたが、「遠くに見える海からここまで津波が来ました」とお話しがあり、当時ニュースで目にしていた情景を思い返し、あらためて津波の恐怖を感じました。



3. 今回の活動を通じて

「大掛かりな作業でない」そう感じた草刈り作業でしたが、実際2日間通して感じたことは、今ここで生活する方の多くがご高齢で簡単な作業ではない。

2日間で若い世代の方はほとんど見かけませんでした。若い方は地元を出て、あらたな生活をスタートされている方が多いと聞きます。正直、私たちも足腰がつらいと感じながら進めた作業です。一人では大変なことも、多くの人手があれば進みも違います。

～いま切実に、多くの人手を必要としています～ まさにこの言葉通りです。

また、大きな目と小さな目が必要だと、あらためて気付かされました。

草刈り機を使って、ぱっと見るとすっきりしたなと思う場所も、細かな残りを手ガマで除草してくださいとの指示で実際にその場を作業していくと、大きな目ではやりきれない部分が見て取れました。

除染車の撤退など行政の手が離れていく中で、実際に生活していく住民の方々のこれからのスタートにはまだまだ必要とされることが残っているのだと思います。

「依頼者様の笑顔が見られるように、活動を続けていきたい」とセンター長の松本さんからお話がありました。作業を終えて帰る際、依頼者様は手を振って笑顔で見送ってください、ほっとしました。

今回、JTBグループの全国で働く皆さんとこうした形で一緒に活動ができ、実際に近くで見た部分は、ニュースで見聞きすることと違いを感じました。復興は進んでいるのか？確かに進んでいる部分も多いにあると感じましたが、被災者の方に寄り添い、一人一人ができることを考え行動に移すことが必要だと感じた2日間でした。活動に参加できたことに感謝し、この機会を組合員の皆様にも広げていけたらと思います。